



©Yuki Asada

受け継がれてきた手仕事を未来へ

「刺しゅうは、悲惨な現実から魔法の国へ私を連れていってくれるの」

そう話すのは、パレスチナ自治区ガザで刺しゅう製品を作る女性たち。“文明の十字路”と呼ばれたパレスチナに受け継がれてきた刺しゅうは、世界中のあらゆる文化の影響を受けて生まれました。立体的な花や目をモチーフにした模様など、一つ一つに意味があるといます。この伝統と文化を次の世代へ受け継ごうと、国連パレスチナ難民救済事業機関（UNRWA）による刺しゅうプロジェクト「Sulafa」では、未亡人や離婚した女性など、社会的に弱い立場にある約300人の女性たちが刺しゅう作りに携わっています。彼女たちにとって、刺しゅうは収入のためだけではなく、日々の楽しみであり、

生きがいでもあるのです。

このSulafaの製品を輸入・販売しているのが、北村記世実さんが2015年に立ち上げた「パレスチナ・アマル」。北村さんは1999年に医療系NGOに参加してガザを訪れ、決して豊かではなくても人とのつながりがあふれるパレスチナに魅入られたそうです。どんな状況でも明るく、生きていることを楽しむ——そんなパレスチナにビジネスを通じて貢献したいと、現在では実際にガザを訪れ、Sulafaの女性たちとの商品開発やブランディングなどにも携わっています。

アマルとはアラビア語で「希望」。祖母から母、母から娘へと継承されてきた伝統が次の世代へつながるよう、パレスチナの女性たちに寄り添っています。



Sulafaプロジェクトに参加する女性たちの手で刺しゅう製品が一つ一つ作られる

- ★パレスチナの刺しゅう製品を1人にプレゼント！
→詳細は38ページへ
- ★商品はオンラインショップ (<http://amal-f.jp/>) や百貨店の催事などで購入できます。

パレスチナ自治区

ガザ地区

